



# めぐみだより No.1

令和3年7月20日

## 1学期の子どもの姿と保育

うさぎぐみ



あつという間に1学期が終わろうとしています。憧れのうさぎ組になり、顔つきがすっかりお兄さん姉さんになりました。ひよこ組を、体操の輪の中に手を繋いで優しく誘う姿は、とても立派で、逞しく思いました。楽しいこと、嬉しいこと、出来るようになったことなども、いっぱいありましたが、この1学期は、特に“悔し涙”を流す姿が沢山ありました。自分の思い通りにいかなかったり、負けて悔しかったり、様々な思いがありました。

進級当初は「もうやりたくない」「できないからいい」と逃げ出してしまう子もいましたが、今では「どうして出来ないのだろう」「もう一回やる!」と、気持ちの変化が表れ、悔しさをバネに燃え上がる子が多くなった印象です。また、そんな姿に共感し「悔しかったね」「頑張ったよね」「絶対大丈夫だよ」と、寄り添い、少しずつですが涙を堪える姿が増えてきました。悔しいという気持ちは、成長するうえでとても大切なことです。夏休み中にも、自分の苦手なことに進んで取り組み、沢山悩みながら心身ともに成長出来たら、と思います。

2学期の課題としては、“人の話を最後まで聞く”“中途半端をやめる”を目標に活動していきたいと思っています。話している人の顔を見たり、姿勢を正して聞いたり、小学校に向けての生活習慣を身に付けていけるような保育を心掛けていきたいです。活動においても、片づけができなかったり、他の遊びに気を取られてしまったりと、達成感を味わうことができなくなってしまうので、“集中力をつけること”を大切に組み込んでいきたいと思っています。2学期も宜しくお願い致します。

はとぐみ



### ◆ 1学期の様子

男の子5人で新しいスタートをきった、はと組さん。幼稚園での遊びを通して少しずつ仲間意識が芽生え、「〇〇くんごはんを食べるとき隣にしよう!」「みんなで何する?」と、友達に声を掛ける姿をよく見かけるようになりました。

自分の想いや感情を伝えたいという気持ちがより強くなった分、遊びの中ではもちろん、意見のぶつかり合いがたくさんあります。ですが、その中で必ず誰かが「じゃあ、こうしようよ!」と提案すると「それいいね!」と言ってまとまり、最後にはみんなニコニコで遊んでいます。

### ◆ ○△□書き

1枚の大きな紙にみんなで○△□を書いてみよう!という活動の中で、そこからどんな発展があるのだろうと思いつつ一緒に書いていきました。すると、まずは簡単な○から書き始めた子が、「地球みたい!」と一言。そこから、△と△を合わせると「星みたい!」、□と□を合わせると「ダイヤモンドみたい!」と、子どもたちからどんどんイメージが湧きあがってきました。最後には「宇宙みたいー!」とイメージを共有することができ、みんなで同じものを書いたという達成感も味わうことができました。



### ◆ 洗濯ごっこ・泡あそび

タライに水を入れて一人一つの石鹸を持って始まった洗濯ごっこ。初めは全く泡が立たず苦戦していたはと組さんでしたが、みんなでかき回していくうちにたくさん泡が出てきました。そこで、ごっこをより活性化させるための洗濯タオルを投入。私は、“タライで洗濯”=“上下にゴシゴシとこする”というイメージだったのですが、子どもたちはタライの中をぐるぐるとかき回していました。聞いてみると、“洗濯機だよ?”という返しが、、、。固定観念が覆った出来事となりました。

2学期は、ルールのある遊びを多く取り入れ、遊んでいくうちに出てくる子どもたちの気づきを大切にできる保育に努めたいと思っています。楽しい夏休みをお過ごしください!

ひよこぐみ



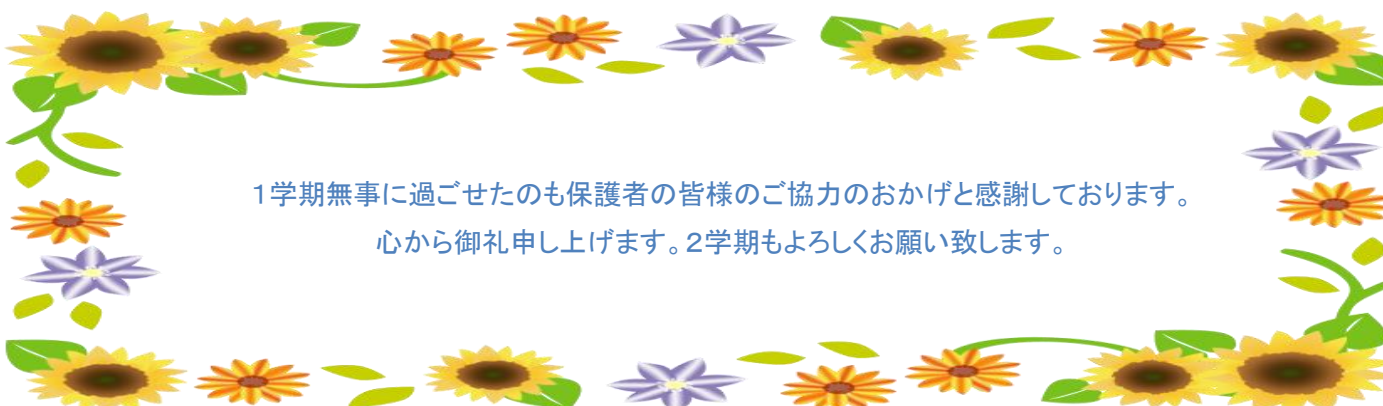
新しい環境に興味を持って動き出す子もいれば、ちょっぴり不安を感じていた子など様々な姿が見られました。そこで、園生活のリズムに慣れて思い思いの遊びを楽しめるようにと考え、4・5月は家庭生活の延長としての環境や雰囲気作りを大切に、温かい雰囲気の中で遊びを通して保育者や友だちと関わって遊びを楽しむことをねらいとしてきました。それから徐々に身の回りのこと、排泄、衣類の着脱、お弁当の準備や片付け、靴の履き替えなど、保育者に手伝ってもらいながら、少しずつ自分で出来るようにと援助をしてきました。また、新聞紙を切ったり丸めたり、粘土を丸めたり転がしたり小さくちぎったりしながら、遊びの中で指先を使うようになってきました。6・7月になると自分のクレヨンで思い思いの絵を描いたり、「早く使いたい!」と心待ちにしていたはさみを使って直線を切ったり、細かく切ったりと、遊びの環境を順番に広げていきました。

2学期は生活リズムを取り戻しながら、自己表現やチャレンジする気持ちを伸ばせるよう、子どもたちの興味関心を受け止めていきたいと考えています。自分の気持ちを表現する楽しさを感じ、友だち同士の関わりも楽しめるよう保育をしていきたいと考えています。

### ◆ 同じクラスの仲間

今では同じひよこ組のお友達の名前も覚え、遠くで遊んでいる声を聞いて「この声は〇〇くんだね!」と声だけで分かるようになってきたり、「△△ちゃんはこれ好きだよね」とか「もう◇◇くん幼稚園来てる?」といった言葉も増え、子どもたちにとっての“お友だち”という存在も大きくなってきました。

ある日の昼食時の会話です。保育者が「ひみつだよ」と言うと、Aくんは「おみず?」と聞き返しました。Bちゃんが「ひみ!つ!」と教えてくれてもAくんは「みみず?」と。途中から聞いていたCちゃんは「何がみみずなの?」と不思議そうに聞いてきました。それをずっと聞いていたDちゃん・Eくん・Fくんは笑いながら「ひみつって言うてるのに~!」と。6人での少しの会話でしたが、ひよこぐみさんらしき満点のかわいらしさで、微笑ましかったです♡



1学期無事に過ごせたのも保護者の皆様のご協力のおかげと感謝しております。  
心から御礼申し上げます。2学期もよろしくお願い致します。